

様式1

大学等名	大谷大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「ICT入門」(2単位)、「データサイエンス入門」(2単位)、「データサイエンス基礎」(2単位)の6単位、
「情報と倫理」(2単位)または「PC利用による表計算応用」(2単位)のいずれか2単位の、
合計8単位を修得することで修了となる。

必要最低科目数・単位数

4 科目

8 単位

履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ICT入門	2	○	○	○					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					
情報と倫理	2		○	○					
PC利用による表計算応用	2		○						

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○	○						
PC利用による表計算応用	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	①ICT入門 ・AI、生成AI(2回目) ・データを起点としたものの見方(2回目) ②データサイエンス入門 ・AI、生成AI、ビッグデータ(2回目) ・データ量の増加(1回目) ・データ駆動型社会(1回目) ・データを起点としたものの見方(3回目)
	1-6	①ICT入門 ・AI最新技術の活用例(2回目) ②データサイエンス入門 ・AI最新技術の活用例(生成AIなど)(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	①データサイエンス入門 ・調査データ(3回目) ・データ作成(4・5回目)
	1-3	①データサイエンス入門 ・データ・AI活用領域の広がり(1・2・3回目) ・生成AIの応用(2回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	①データサイエンス基礎 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化(8~11回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化(12~14回目)
	1-5	①データサイエンス基礎 ・データ・AI活用事例紹介(2~7回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	①データサイエンス入門 ・データ倫理(3回目) ②PC利用による表計算応用 ・データ倫理(1・8回目) ③情報と倫理 ・倫理的・法的・社会的課題(4回目) ・個人情報保護(12回目) ・AI社会原則、AIサービスの責任論(14回目)
	3-2	①データサイエンス入門 ・サイバーセキュリティ(1回目) ②情報と倫理 ・情報セキュリティの3要素、サイバーセキュリティ(13回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	①データサイエンス基礎 ・データの種類、データの分布、データのばらつき(2～7回目) ・相関と因果(4・5回目) ・母集団と標本抽出(8・9回目) ・統計情報の正しい理解(12回目) ②PC利用による表計算応用 ・データの種類、データの分布、データのばらつき(9・10回目)
	2-2	①データサイエンス基礎 ・データ表現(12回目) ②PC利用による表計算応用 ・データ表現(6～8回目) ③データサイエンス入門 ・データ活用を知る(4・5回目)
	2-3	①データサイエンス基礎 ・データの取得(8・9回目) ・データの集計(8・9回目) ②PC利用による表計算応用 ・データ解析ツール(スプレッドシート)(3・4・9・10回目) ・表形式のデータ(csv)(3・4・9・10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を身につけること
- ・AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解すること
- ・情報社会で注意すべき情報倫理・モラルについて学び、AI・データを活用する際に注意を払い、活用できるようになる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6

年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 1630 人

女性 1436 人

(合計 3066 人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	1,277	318	1,272	88	0											88	7%
社会学部	924	220	880	157	0											157	18%
教育学部	513	130	520	0	0											0	0%
国際学部	352	100	400	44	0											44	11%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	3,066	768	3,072	289	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	289	9%

様式3

大学等名 大谷大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 116 人 (非常勤) 281 人

② プログラムの授業を教えている教員数 3 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 藤元 雅文 (役職名) 教育・学生支援担当副学長兼文学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
教育推進室
(責任者名) 藤元 雅文 (役職名) 教育推進室長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
教育推進室規程

⑥ 体制の目的
本学の教育活動について継続的に検証及び提言を行い、学生の学びの質保証及び教育の推進に資することを目的としている。

⑦ 具体的な構成員
(1) 推進室長(教育・学生支援担当副学長兼文学部長)／藤元 雅文
(2) 副推進室長／野村 明宏
(3) 文学部長／藤元 雅文
(4) 社会学部長／赤澤 清孝
(5) 教育学部長／西村 美紀
(6) 国際学部長／アマ ミチヒロ
(7) 大学院人文学研究科長／福島 栄寿
(8) 学生支援部事務部長／岡田 治之
(9) 学生支援部教務課長／濱 実穂子
(10) 推進室員 若干名／三浦 誉史加、大原 ゆい、本明 義樹、渡邊 大介、西尾 浩二、寺川 直樹

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	9%	令和7年度予定	15%	令和8年度予定	17%
令和9年度予定	19%	令和10年度予定	21%	収容定員(名)	3,072
具体的な計画					
2025年度よりプログラム必修科目の1つの「ICT入門」を、卒業にあたって全学共通の必修科目とし、プログラム受講の契機としている。また、その他、説明会や大学の媒体に掲載して周知も行い、履修者数の向上を目指す。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

・本プログラムは現在も学部・学科を問わず受講可能である。 ・2025年度よりプログラム必修科目の1つの「ICT入門」を、卒業にあたって全学共通の必修科目としている。 ・その他の科目についても、全学部、学科で受講できるよう、時間割上の調整を毎年度調整を行っている。 ・対面で実施している授業(「データサイエンス入門」「データサイエンス基礎」「PC利用による表計算応用」)については、実施環境(PC設置教室)の関係上、受講定員を設定しているため、授業の実施方法については今後も引き続き検討を行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

・新入生の履修登録説明会での説明や新入生全員に配付している『履修要項』、大学HPへの掲載を行い、周知を行っている。 ・今後は、入学案内等、他の媒体への掲載も含めて検討し、周知方法を検討する。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・学生支援部教務課(教務系部門)及び教育研究支援部教育研究支援課(情報系部門)において窓口を設置しており、学生に対して、教育・学習に関する技術面・教育面での継続的な支援を行っている。

・対面で実施している授業(「データサイエンス入門」「データサイエンス基礎」「PC利用による表計算応用」)については、「情報と倫理」を除き、学生の「情報教育アシスタント」を配置し、授業受講時に、不明な点等をその場で確認できるサポート体制を築いている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

・学内LMSには、講義担当者にWeb上で質問ができる仕組みを構築している。

・授業内では、定期的に設定する課題で学生の理解度を確認し、適宜必要な学習指導を行う。

・⑪にもある通り、対面で実施している授業(「情報と倫理」を除く)は、学生の「情報教育アシスタント」を配置し、授業受講時に、不明な点等をその場で確認できる仕組みを構築している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育推進室

(責任者名) 大森 一浩

(役職名) 教育・学生支援担当副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは2024年度より実施しており、現時点ではまだ修了者はいない。2024年度の履修者は次の通りである。必修科目「ICT入門」45名、「データサイエンス入門」14名、「データサイエンス基礎」10名、「情報と倫理」191名、「PC利用による表計算応用」11名。 2025年度より、構成する科目のうち1科目を第1学年の必修科目とするが、その他の科目の履修の状況も確認する。2025年度までにおいて、情報教室で対面実施している科目では定員を設定せざるを得ない状況のため、授業の実施方法については今後も教育推進室で検討を行う。 なお、各授業における理解度ををはかる課題等の提出状況については、LMSで把握することが可能である。
学修成果	本プログラムを構成する科目等では、「AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解する。」「活用事例に沿ったシチュエーションでの統計の体験を通じて、統計を活用することができる。」等を学修成果として想定している。 各授業においては、シラバスに基づき適切に到達状況を確認して厳正な成績評価を行っている。 今後は、外部のアセスメントテストを活用して測定すること等も教育推進室において検討を行う。 上記により、修了者はいないが一定の学修成果が得られていると考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「この授業の内容を理解または習得できましたか」という質問の回答で確認しており、回答者のうち構成する科目の平均は81.85%が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。 教育推進室で状況の把握・分析を行うとともに、「授業評価アンケート」の結果は各担当教員も確認できるため、必要に応じて改善を行っている。 なお、授業内でも定期的に設定する課題で学生の理解度を確認している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「全体的にみて、この授業はあなたにとって有益で満足度の高い授業でしたか」という質問の結果は、回答者のうち92.26%が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。よって、この結果を維持しつつ、受講した学生が他の学生へ推奨することを企図する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する必修科目の「ICT入門」は2025年度から全学必修となることが決まっており、履修者数や履修率の向上に向けて推進している。また、毎年度新入生に配付し、大学HPでも公開している「履修要項」において、本プログラムの内容を掲載し、学生の履修を推進している。 本プログラムで「選択必修科目」としている「情報と倫理」では、開講元である社会学部だけではなく、「自己選択科目」(卒業にあたっては必修ではないが、修得した場合は卒業所要単位に計上される科目)としての履修となる他学部の学生も受講しており、全学的な興味・関心があると思われるため、本プログラムの効果的な周知を行い、学生の履修を推進する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点 教育プログラム修了者の 進路、活躍状況、企業等 の評価 産業界からの視点を含め た教育プログラム内容・手 法等への意見	本プログラムを構成する必修科目の「ICT入門」は2025年度から全学必修となることが決まっており、履修者数や履修率の向上に向けて推進している。また、毎年度新入生に配付し、大学HPでも公開している「履修要項」において、本プログラムの内容を掲載し、学生の履修を推進している。 本プログラムで「選択必修科目」としている「情報と倫理」では、開講元である社会学部だけではなく、「自己選択科目」(卒業にあたっては必修ではないが、修得した場合は卒業所要単位に計上される科目)としての履修となる他学部 の学生も受講しており、全学的な興味・関心があると思われるため、本プログラムの効果的な周知を行い、学生の履修を推進する。 本学で毎年度実施してる「業界・企業研究セミナー」にお越しいただいている企業に、本プログラムの内容・手法等への意見を聞くアンケート調査を実施し、教育推進室で確認のうえ、改善へつなげる予定である。
数理・データサイエンス・AIを 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意 義」を理解させること	モデルカリキュラムの「導入」部分に準じた内容を展開するとともに、事例紹介では、実際に京都人口統計データやそれを活用した公的な取り組み事例などを紹介し、身近で活用されているデータサイエンス事例と、今、学んでいることをリンクさせて紹介することで「学ぶ楽しさ」を理解させている。 また、これからの社会で受ける恩恵、社会で出た際に求められる役割、どのように社会が豊かになるのか、等について紹介することで「学ぶことの意義」を理解させている。 「授業評価アンケート」の「有益度・満足度」、「ものの見方や考え方への知的刺激」の項目をもとに評価・検証を実施する。
内容・水準を維持・向上しつ つ、より「分かりやすい」授業 とすること ※社会の変化や生成AI等の 技術の発展を踏まえて教育 内容を継続的に見直すなど、 より教育効果の高まる授業内 容・方法とするための取組や 仕組みについても該当があ れば記載	「授業評価アンケート」の結果や企業等へのアンケート結果をもとに、学生に「分かりやすさ」の観点から、授業の内容について教育推進室で検討を行う。

科目名	I C T 入門		
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	集中講義
配当学年	1年	単位数	2単位
担当者	大 秦 一 浩	授業種別	演習
ナンバリングコード	3 AL-61 STS 1 2		

授業テーマ	社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、いかに効果的に情報を活用できるかを実践的に学んでいく。			
授業概要	【オンライン授業（オンデマンド型）】Officeソフトの操作学習を通じ、身近な素材を元に、文書作成ソフト（Word）ではレポート作成、表計算ソフト（Excel）ではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）ではスライド作成といった、PCスキルの基本操作を身につける。また、情報社会における様々な危険から自分たちの身を守るための知識、情報を扱う上での知識・技能である、広義の情報リテラシーの醸成も図る。 本授業とデータサイエンス入門・データサイエンス基礎を通じてIoT、AIの時代に対応したICTリテラシーの向上と習得、他科目での学習や学外の活動などで活用できるよう、授業を進める。			
DPに基づく学習到達目標（学習成果）				
DP1（汎用的言語能力）	－	－	－	
DP2（知識・教養）	○	多様な情報を適切に扱うための知識を身につけ、Microsoftの基本操作を通して、主体的に大学での学修や就職後の実務に活きる力を身につけることができる。	平常点／授業内試験／レポート	
DP3（思考・技能）	○	テキストおよび授業資料において、必要な情報を効果的に収集・活用し、課題発見・解決のためにExcel、Word、PowerPointの機能を使いわけ、自らの思考や成果を表現することができる。	平常点／授業内試験／レポート	
DP4（専門的な知識）	－	－	－	
DP5（専門的な技能）	－	－	－	
成績評価方法				
種別	割合（％）	評価基準等		
平常点	75	授業ごとの積極的な参加姿勢および学習理解度を測る。		
授業内試験	10	授業内にて複数回理解度を測る課題を実施。		
定期試験				
レポート	15	最終授業回にて総合的な理解度を測る課題を実施。		
その他				
自由記載	特になし。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対してはクラス全体に対してフィードバックを適宜行う。フィードバックは、OTANI UNIPA を通じて講評・解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル』	noa出版	noa出版	978-4908434792	解説に使用する。毎授業持参すること。
自由記載	特になし。適宜データを配布する。			
参考書等				
自由記載	特になし。適宜データを配布する。			
授業計画				
回数	学習内容	授業方法	準備学習（予習・復習）	時間（分）
1	オリエンテーション Windowsの基本（ファイルとフォルダの操作）Word 入力・修正	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
2	データAI利活用	講義	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
3	セキュリティと情報モラル メールコミュニケーション	講義	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
4	Word 文書作成①（書式・表の作成）	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
5	Word 文書作成②（図の挿入・印刷）	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
6	Word レポート作成①	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
7	Word レポート作成②	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90

8	Excel 基本操作、表作成①	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
9	Excel 表作成②、印刷	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
10	Excel 計算式	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
11	Excel 関数	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
12	Excel グラフ作成	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
13	PowerPoint プレゼンテーションとは、基本操作・スライド作成①	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
14	PowerPoint スライド作成②（スライド作成演習、総復習課題）	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
15	PowerPoint スライド作成③（プレゼンテーションにおいて活用できる知識・技能、総復習課題）	講義・実習	配布資料・テキストの学習したページをもとに復習。	90
16				
質問・相談の方法		OTANI UNIPAにて受け付ける。		
担当者からの連絡		・理解促進のため授業計画の順や内容を変更することがあります。 ・この授業はOTANI UNIPAを使って、資料の配布や課題の提出などを行います。 事前にOTANI UNIPAの使用方法について確認しておきましょう。 ・今後の大学生活において、レポート・プレゼンテーションには必ず直面することになります。授業内や授業後の演習課題に取り組み身につけていきましょう。社会人になっても必須のスキルです。一度しっかりと学習すれば、その後もずっと使える有益なスキルなので、ぜひ一緒に身につけましょう。 ・課題作成のために自習が必要な場合があります。		
実務経験の詳細及び実務経験と授業科目の関連				
当授業で実施するアクティブ・ラーニングの方法		調査学習／ミニッツペーパー		
※22年度以前入学生適用 身につく力（学位授与方針との関連）				
DP1				
DP2				
DP3				
DP4				
DP5				
DP6				

科目名	データサイエンス入門		
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜5限
配当学年	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位
担当者	大森 一浩	授業種別	演習
ナンバリングコード	3 AL-61 STS 1 2		

授業テーマ	データ・AIを活用する価値やそれらを扱う上での留意事項を理解する。			
授業概要	人工知能（AI）の基本的な能力を理解して、社会で応用される分野を知る。 また、身近にAIツールがあることを理解する。 併せて情報社会で注意すべき情報倫理・モラルについて学び、 AI・データを活用する際に注意を払い、活用できるようになる。			
DPに基づく学習到達目標（学習成果）				評価方法
DP1（汎用的言語能力）	－	－	－	
DP2（知識・教養）	○	AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解する。		平常点／授業内試験／レポート
DP3（思考・技能）	○	プロセスから統計を理解し、表現手法として統計を扱えるようになる。活用事例に沿ったシチュエーションでの統計の体験を通じて、統計を活用することができる。		平常点／授業内試験／レポート
DP4（専門的な知識）	－	－	－	
DP5（専門的な技能）	－	－	－	
成績評価方法				
種別	割合（％）	評価基準等		
平常点	30	授業ごとの積極的な参加姿勢および学習理解度を測る。		
授業内試験	60	授業内にて複数回理解度を測る小テストを実施。 最終授業回にて総合的な理解度を測るテストを実施。		
定期試験				
レポート	10	思考力・理解度を測る中間レポートを提出。		
その他				
自由記載	特になし。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対してはクラス全体に対してフィードバックを適宜行う。フィードバックは、授業内やOTANI UNIPAを通じて講評・解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめの一步 基礎からはじめるデータサイエンス	noa出版	noa出版	490843476X	
自由記載	特になし。			
参考書等				
自由記載	特になし。			
授業計画				
回数	学習内容	授業方法	準備学習（予習・復習）	時間（分）
1	オリエンテーション 社会で起きている変化①	講義形式	Section1 STEP1,STEP2 Lesson1 P.2～9（該当ページの確認・復習）	90
2	社会で起きている変化② AIとビッグデータを活用したテクノロジー	講義・グループワーク	Section1 STEP2 Lesson1～2 P.10～15（該当ページの確認・復習）	90
3	社会で起きている変化③ データサイエンスの使われ方や活用 データ活用を知る① データ活用のプロセス	講義形式	Section1 STEP2 Lesson2 P.16～18 Section2 STEP1 Lesson1～2 P.20～23 （該当ページの確認・復習）	90
4	データ活用を知る② データへの変換・選択	講義・実習	Section2 STEP2 Lesson3 P.24～29（該当ページの確認・復習）	90
5	データ活用を知る③ データの前処理、統計解析、考察	講義・実習	Section2 STEP2 Lesson4～6 P.30～37（該当ページの確認・復習）	90
6	データ活用を知る④ グラフの表現（中間レポート）	講義・実習	Section2 STEP2 Lesson6 P.38～48（該当ページの確認・復習）	90
7	分析手法を知る① 計算式・数式	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson1 P.90～93（該当ページの確認・復習）	90

8	分析手法を知る② データと値	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson1 P.94～98（該当ページの確認・復習）	90
9	分析手法を知る③ 関数	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson1 P.99～101（該当ページの確認・復習）	90
10	分析手法を知る④ データベース活用の基本	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson2 P.102～105（該当ページの確認・復習）	90
11	分析手法を知る⑤ ピボットテーブル・グラフ作成	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson2 P.106～117（該当ページの確認・復習）	90
12	分析手法を知る⑥ 標本調査・代表値・ばらつき	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson5～7 P.118～133（該当ページの確認・復習）	90
13	分析手法を知る⑦ ・確率・関係(1)	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson8～9 P.134～142（該当ページの確認・復習）	90
14	分析手法を知る⑧ 関係(2)・回帰分析	講義・実習	Section3 STEP2 Lesson9～10 P.143～152 （該当ページの確認・復習）	90
15	前期の総復習	講義・実習	これまでの学習の復習	90
16				
質問・相談の方法		授業時、またはOTANI UNIPAにて回答。		
担当者からの連絡		・後期「データサイエンス基礎」と併せての受講が望ましい。 ・この授業はOTANI UNIPAを使って、資料の配布や課題の提出などを行います。 事前にOTANI UNIPAの使用方法について確認しておきましょう。 ・office操作は、学生の間はもちろん、社会人になっても必須のスキルです。一度しっかりと学習すれば、その後もずっと使える有益なスキルなので、ぜひ一緒に身につけましょう。 ・課題作成のために自習が必要な場合があります。 ・受講態度が著しく悪く、講師の注意にも改善がみられない場合、退室など必要に応じ厳正な対処を行います。上記受講態度には私語、携帯電話使用、授業に無関係なインターネット閲覧、他の受講生への迷惑行為などが含まれます。 ・理解促進のため授業計画の順や内容を変更することがあります。		
実務経験の詳細及び実務経験と授業科目の関連				
当授業で実施するアクティブ・ラーニングの方法		グループワーク／ミニッツペーパー		
※22年度以前入学生適用 身につく力（学位授与方針との関連）				
DP1				
DP2				
DP3				
DP4				
DP5				
DP6				

科目名	データサイエンス基礎		
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜4限
配当学年	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位
担当者	大森 一浩	授業種別	演習
ナンバリングコード	3 AL-61 STS 2 2		

授業テーマ	データ・AIを活用する価値やそれらを場面に応じて適切に活用できる。			
授業概要	人工知能（AI）の基本的な能力を理解して、社会で応用される分野を知る。 また、身近にAIツールがあることを理解する。 併せて情報社会で注意すべき情報倫理・モラルについて学び、 AI・データを活用する際に注意を払い、活用できるようになる。			
DPに基づく学習到達目標（学習成果）				評価方法
DP1（汎用的言語能力）	－	－	－	
DP2（知識・教養）	○	AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解する。		平常点／授業内試験／レポート
DP3（思考・技能）	○	プロセスから統計を理解し、表現手法として統計を扱えるようになる。活用事例に沿ったシチュエーションでの統計の体験を通じて、統計を活用することができる。		平常点／授業内試験／レポート
DP4（専門的な知識）	－	－	－	
DP5（専門的な技能）	－	－	－	
成績評価方法				
種別	割合（％）	評価基準等		
平常点	30	授業ごとの積極的な参加姿勢および学習理解度を測る。		
授業内試験	60	授業内にて複数回理解度を図る小テストを実施、最終授業回にて総合的な理解度を測るテストを実施。		
定期試験				
レポート	10	思考力・理解度を測る中間レポートを提出。		
その他				
自由記載	特になし。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対してはクラス全体に対してフィードバックを適宜行う。フィードバックは、授業内やOTANI UNIPAを通じて講評・解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめの一步 基礎からはじめるデータサイエンス	noa出版	noa出版	490843476X	
自由記載	特になし。			
参考書等				
自由記載	特になし。			
授業計画				
回数	学習内容	授業方法	準備学習（予習・復習）	時間（分）
1	オリエンテーション 前期の復習（データ活用・分析）	講義形式	前期実施内容（P.2～48、90～152）の確認	90
2	データの活用事例に学ぶ①-1 顧客データの統計的記述から特性を分析する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson1 P.50～63（該当ページの確認・復習）	90
3	データの活用事例に学ぶ①-2 顧客データの統計的記述から特性を分析する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson1 P.50～63（該当ページの確認・復習）	90
4	データの活用事例に学ぶ②-1 ・気象条件との相関を分析し、販売戦略を検討する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson2 P.64～77（該当ページの確認・復習）	90
5	データの活用事例に学ぶ②-2 ・気象条件との相関を分析し、販売戦略を検討する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson2 P.64～77（該当ページの確認・復習）	90
6	データの活用事例に学ぶ③-1 ・サンプリングによる品質管理を体験する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson3 P.78～89（該当ページの確認・復習）	90
7	データの活用事例に学ぶ③-2 ・サンプリングによる品質管理を体験する	講義・実習	Section3 STEP1 Lesson3 P.78～89（該当ページの確認・復習）	90

8	データ活用を実践する①-1 ・統計の分析方法の判断、結果の考察・結論付け ・公的統計のデータ収集と記述的分析の演習	講義・実習	Section4 STEP1 P.154～157（該当ページの確認・復習）	90
9	データ活用を実践する①-2 ・統計の分析方法の判断、結果の考察・結論付け ・公的統計のデータ収集と記述的分析の演習	講義・実習	Section4 STEP1 P.154～157（該当ページの確認・復習）	90
10	データ活用を実践する②-1 ・統計の分析方法の判断、結果の考察・結論付け ・公的統計と気象情報を使った回帰分析と将来予測の演習	講義・実習	Section4 STEP2 P.158～162（該当ページの確認・復習）	90
11	データ活用を実践する②-2 ・統計の分析方法の判断、結果の考察・結論付け ・公的統計と気象情報を使った回帰分析と将来予測の演習	講義・実習	Section4 STEP2 P.158～162（該当ページの確認・復習）	90
12	データを表現する ・集めた情報の整理 ・よいプレゼンテーション資料について	講義・実習	Section5 STEP1 P.164～174（該当ページの確認・復習）	90
13	グループワーク・テーマをもとに分析・考察・資料作成	実習・グループワーク	Section4～Section5 P.154～174（実践に向けた復習）	90
14	グループワーク・テーマをもとに分析・考察・資料作成	実習・グループワーク	Section4～Section5 P.154～174（実践に向けた復習）	90
15	グループ発表・講評 授業のまとめ ・各グループの発表・講評 ・授業のまとめ	講義・ディスカッション	Section5 P.175（該当ページの確認・復習）	90
16				
質問・相談の方法		授業時、またはOTANI UNIPAにて回答。		
担当者からの連絡		・本科目は前期「データサイエンス入門」を受講した学生、または以下のExcel操作レベルを満たしている学生の受講がのぞましい。 四則演算、基本的な関数（SUM、AVERAGE、ROUNDなど）、表・グラフの挿入、編集 ・この授業はOTANI UNIPAを使って、資料の配布や課題の提出などを行います。 事前にOTANI UNIPAの使用方法について確認しておきましょう。 ・office操作は、学生の間はもちろん、社会人になっても必須のスキルです。一度しっかりと学習すれば、その後もずっと使える有益なスキルなので、ぜひ一緒に身につけましょう。 ・課題作成のために自習が必要な場合があります。 ・受講態度が著しく悪く、講師の注意にも改善がみられない場合、退室など必要に応じ厳正な対処を行います。上記受講態度には私語、携帯電話使用、授業に無関係なインターネット閲覧、他の受講生への迷惑行為などが含まれます。 ・理解促進のため授業計画の順や内容を変更することがあります。		
実務経験の詳細及び実務経験と授業科目の関連				
当授業で実施するアクティブ・ラーニングの方法		グループ・ディスカッション／グループワーク／ミニッツペーパー		
※22年度以前入学生適用 身につく力（学位授与方針との関連）				
DP1				
DP2				
DP3				
DP4				
DP5				
DP6				

科目名	情報と倫理		
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜3限
配当学年	1年	単位数	2単位
担当者	渡辺 啓真	授業種別	講義
ナンバリングコード	5 SO-12 LIH 1 1 / 5 CD-12 LIH 1 1		

授業テーマ	情報倫理の諸問題			
授業概要	デジタル化、電子ネットワーク化の進行によって投げかけられている具体的な問題を取り上げ、それらを倫理学の基本的問題（自由、所有、権利、責任、自己と他者）に立ち返って考えていく。 情報倫理の主要なテーマをできるだけ取り上げると同時に、その根底にある基礎的な問題を考えることに留意する。 とりわけ、「知的所有権」「プライバシー・個人情報」「監視社会化」「AI、AGI、自律型ロボットと人間社会」の問題に焦点を当てる。 （基本的な文献の紹介も随時行う。毎回、小レポートを提出してもらう。）			
DPIに基づく学習到達目標（学習成果）				評価方法
DP1（汎用的言語能力）	－	－	－	
DP2（知識・教養）	○	情報倫理の諸問題が生じてくる背景である、高度情報化における情報技術やメディア、コミュニケーション、社会の変容について理解し説明できる。 とくに、今後急速に進展するAI技術によって生じるであろう問題について理解し、考えることができる。		平常点／レポート
DP3（思考・技能）	○	講義で用いるMoodle上の資料や情報などを通じて、情報倫理問題の理解・考察・解決のための情報収集・分析・評価の方法と力を身につける。		平常点／レポート
DP4（専門的な知識）	○	高度情報化社会、情報倫理に関連する用語について、簡略に説明できる。 情報倫理に関連する問題について、具体例をあげて説明し考察できる。 情報倫理の問題が、自分の生活や将来のキャリアとどのように関連しているかについて理解し、答えることができる。		平常点／レポート
DP5（専門的な技能）	－	－	－	
成績評価方法				
種別	割合（％）	評価基準等		
平常点	50	毎回の小レポート		
授業内試験				
定期試験				
レポート	50	期末レポート（課題は講義中に指示する）		
その他				
自由記載	-			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<フィードバック方法> 毎回の小レポート、リアクションペーパーの内容から、代表的なものを紹介し、コメントする。			
教科書				
自由記載	プリント配布 参考書を授業時に随時指示する			
参考書等				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンピュータ倫理学	デボラ・ジョンソン	オーム社		
一緒にいてもスマホ--SNSとFTF--	シェリー・タークル	青土社(2018)		
自由記載	プリントを配布する。参考図書は各回授業のテーマに応じて随時指示する			
授業計画				
回数	学習内容	授業方法	準備学習（予習・復習）	時間（分）
1	0-a 倫理学が問題にすること	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	60
2	0-b 応用倫理学の諸問題	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
3	1 応用倫理と情報倫理	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
4	2 情報倫理の諸問題概観	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120

5	3	ネットワーク上のコミュニケーション	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
6	4	表現の自由と規制	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
7	5	ネットワーク犯罪	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
8	6	情報モラル教育の問題	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
9	7-1	知的所有権について	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
10	7-2	著作権の歴史とその哲学的基礎	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
11	7-3	デジタルネットワーク時代の著作権問題	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
12	8-1	プライバシーと個人情報	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
13	8-2	データベイズ時代の情報セキュリティと個人情報保護	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
14	8-3	AI技術の普及がもたらす問題とAI社会の原則	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
15	9	ユビキタス社会、技術融合時代の未来と倫理問題	講義中心に行うが、配布した資料、文献の読解や、取り上げた問題に関する小レポートの時間を適宜設ける。	Moodle上に掲載する資料と板書をもとに、重要と思われる事項、概念などについて下調べをし、講義ノートを作成する。	120
16					
質問・相談の方法		授業時以外に、UNIPA,Moodle上でコンタクトを取り、質問を受け付ける。			
担当者からの連絡					
実務経験の詳細及び実務経験と授業科目の関連					
当授業で実施するアクティブ・ラーニングの方法		ミニッツペーパー			
※22年度以前入学生適用 身につく力（学位授与方針との関連）					
DP1		◎ 地域社会に関するさまざまな専門知識に加え、政治や経済、行政機構や経営、情報技術、法律などの専門知識について、地域での実践との関わりをなかで総合的に理解している。〔知識・理解〕			
DP2		○ 実践活動を行っていく上で必要とされるコーディネーション力やファシリテーション力、マネジメント力、情報技術を活用した情報発信のスキルや統計処理といった技能や技術を身につけている。〔技能・表現〕			
DP3		○ 地域社会に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し、地域が抱える問題の本質を見抜くことができる。また、論理的、創造的にものごとを考え、具体的な問題解決策を提案できる。〔創造的思考・判断〕			
DP4					
DP5					
DP6					

科目名	P C利用による表計算応用		
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜5限
配当学年	1年	単位数	2単位
担当者	高橋 真	授業種別	演習
ナンバリングコード	3 AL-61 LIH 2 2		

授業テーマ	Microsoft office Excel の操作を習得し、データ分析の基礎を身につける。				
授業概要	表やグラフの作成、関数などのMicrosoft office Excelの操作を習得し、さらに実践力を磨く。データ分析の基礎や表現を学び、データサイエンスを学習するための基盤を身につける。表計算ツールの使い方だけではなく、その活用方法やデータを扱うことの意味や考え方を学び、実践の場でスムーズに活用できるようになることを目指す。				
DPに基づく学習到達目標（学習成果）					評価方法
DP1（汎用的言語能力）	○	テキストおよび授業資料において記述された内容を明確に理解し、プロセスから使用ツールやデータの扱い方を理解することができる。			平常点／授業内試験
DP2（知識・教養）	○	情報を適切に取り扱うことができ、Excelの操作や活用法、データを扱う上でのルールなど、基礎知識を体系的に理解している。			平常点／授業内試験
DP3（思考・技能）	○	活用事例や演習課題を通じて、データの扱い方や分析の必要性を理解し、多様な情報を分析的な視点で活用・発信することができる。			平常点／授業内試験
DP4（専門的な知識）	－	－	－		
DP5（専門的な技能）	－	－	－		
成績評価方法					
種別	割合（％）		評価基準等		
平常点	50		授業ごとの積極的な参加姿勢および学習理解度を測る。		
授業内試験	50		授業内にて複数回理解度を測る小テストを実施。最終授業回にて総合的な理解度を測る課題を実施。		
定期試験					
レポート					
その他					
自由記載	特になし。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対してはクラス全体に対してフィードバックを適宜行う。フィードバックは、授業内やOTANI UNIPA を通じて講評・解説を行う。				
教科書					
書名	著者		出版社	ISBN	備考
『完全マスターExcel2019』	noa出版		noa出版	4908434387	解説に使用する。毎授業持参すること。
『使える技術(ワザ)が身に付く！Excel問題集 全102題』	noa出版		noa出版	4908434700	
自由記載	特になし。適宜データを配布する。				
参考書等					
自由記載	特になし。適宜データを配布する。				
授業計画					
回数	学習内容		授業方法	準備学習（予習・復習）	時間（分）
1	ガイダンス		講義形式	『完全マスターExcel2019』（P1～47）予習	90
2	表の作成		講義・実習	『完全マスターExcel2019』（P48～77、121～149）予習	90
3	計算式・関数① 基本の関数		講義・実習	『完全マスターExcel2019』（P78～120）予習	90
4	計算式・関数② 関数とデータ		講義・実習	『完全マスターExcel2019』（P78～120）予習	90
5	中間課題・解説		講義・実習	演習問題これまでの学習の復習	90
6	グラフの作成① 色々なグラフ		講義・実習	『完全マスターExcel2019』（P150～177）予習	90
7	グラフの作成② グラフとグラフィック		講義・実習	『完全マスターExcel2019』（P150～177）予習	90
8	データ表現実践		グループワーク	これまでの学習の復習	90

9	データ分析① 抽出・集計	講義・実習	『完全マスターExcel2019』(P180～230)予習	90
10	データ分析② 分析	講義・実習	『完全マスターExcel2019』(P231～253)予習	90
11	中間課題・解説	講義・実習	演習問題これまでの学習の復習	90
12	総合問題演習	講義・実習	これまでの学習の復習	90
13	総合問題演習	講義・実習	これまでの学習の復習	90
14	データ分析実践	グループワーク	これまでの学習の復習	90
15	全体総復習 最終課題	実習	検定試験実践	90
16				
質問・相談の方法		授業の前後、またはOTANI UNIPAにて受け付ける。		
担当者からの連絡		・本科目は前期「P C 利用による表計算入門」を受講した学生、または以下のExcel操作レベルを満たしている学生の受講がのぞましい。 四則演算、基本的な関数（SUM、AVERAGE、ROUNDなど）、表・グラフの挿入、編集 ・理解促進のため授業計画の順や内容を変更することがあります。 ・この授業はOTANI UNIPAを使って、資料の配布や課題の提出などを行います。 事前にOTANI UNIPAの使用方法について確認しておきましょう。 ・office操作は、学生の間はもちろん、社会人になっても必須のスキルです。一度しっかりと学習すれば、その後もずっと使える有益なスキルなので、ぜひ一緒に身につけましょう。 ・課題作成のために自習が必要な場合があります。 ・受講態度が著しく悪く、講師の注意にも改善がみられない場合、退室など必要に応じ厳正な対処を行います。上記受講態度には私語、携帯電話使用、授業に無関係なインターネット閲覧、他の受講生への迷惑行為などが含まれます。		
実務経験の詳細及び実務経験と授業科目の関連				
当授業で実施するアクティブ・ラーニングの方法		グループ・ディスカッション／グループワーク／ミニッツペーパー		
※22年度以前入学生適用 身につく力（学位授与方針との関連）				
DP1				
DP2				
DP3		○ 人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕		
DP4		◎ 人間・社会・自然環境に関して問題を見だし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕		
DP5		○ 人文諸科学の幅広い知識を用いて、人間・社会・自然環境の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕		
DP6				

聴講登録 関連日程
I. 履修要領
教育研究目的
卒業の要件
単位制
単位修得 の認定
学部・学科別 卒業単位 配当表
開講科目表
時間割作成
聴講登録
共通基礎 科目外国語
現代総合科目・ 自己選択科目
スポーツ 科目
国際交流 科目
コンソーシアム 単位互換制度
キャリア教育 プログラム
数理・ データサイエンス・ AI教育プログラム
卒業研究
進級基準
成績評価
試験
成績評価
GPA
規程集
大谷大学 履修規程
大谷大学 進級規程
II. 資格の取得
教職課程
保育士養成課程
大谷保育協会 保育心理士課程
学校図書館 司書教諭課程
博物館学課程
図書館学課程
真宗大谷派 教師課程
社会教育課程 【社会教育主事任用資格】
社会福祉士 国家試験 受験資格課程
社会福祉主事 【任用資格】
開講科目表
巻末
科目担当者 一覧表

9. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

【1】数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

本学では、2024 年度より、数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的に、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を開講します。このプログラムはデータサイエンス教育強化拠点コンソーシアムのスキルセット（http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_curriculum.html）の内容に基づいています。

※本プログラムは、2025 年度に文部科学省が認定する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に申請予定です。

【2】履修すべき科目・単位

本プログラムは下記の科目で構成しており、このうち必修科目のすべての科目及び選択必修科目のうちから 1 科目以上を卒業までに履修することで修了となります。

	本学開講科目	単位数	開講学科等
必修科目	ICT 入門	2	現代総合科目 キャリア形成系
	データサイエンス入門	2	現代総合科目 キャリア形成系
	データサイエンス基礎	2	現代総合科目 キャリア形成系
選択必修科目	情報と倫理	いずれか	現代社会学科
	PC 利用による表計算応用	2	現代総合科目 キャリア形成系

※履修にあたっての順序はありませんが、「ICT 入門」から履修することを推奨します。

【3】履修方法

このプログラムを履修するために特別な手続きは必要ありません。他の科目と同様、「開講科目表」に記載している履修学年指定に従って履修してください。

【4】修了証明書

本プログラムを修了した人で希望する人には、証明書を卒業時に発行予定です。また、卒業後も発行できます。

履修要項 2024



OTANI UNIVERSITY

FACULTY OF LETTERS 文学部

FACULTY OF SOCIOLOGY 社会学部

FACULTY OF EDUCATION 教育学部

FACULTY OF INTERNATIONAL STUDIES 国際学部

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES 大学院人文学研究科

大谷大学

1. 卒業の要件（学則第 19 条）

本学を卒業し学士の学位を得るためには、学生は 4 年以上在学し、次の基準及び卒業単位一覧表に基づいて、124 単位以上を履修しなければなりません。

(1) 共通基礎科目

共通基礎科目は、総合科目として「人間学」、大学導入科目として「学びの発見」、必修外国語として「英語」並びに「初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、又は日本語〔外国人留学生に限る〕）」を、次のとおり履修しなければなりません。

※「初修外国語」は文学部・国際学部のみ必修となります。

ア 総合科目 計 8 単位以上

「人間学Ⅰ」 4 単位

「人間学Ⅱ」 4 単位以上

イ 大学導入

「学びの発見」 2 単位

ウ 必修外国語

文学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 4 単位

「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」 4 単位

社会学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 0 単位以上

「英語Ⅱ」 4 単位及び「初修外国語Ⅱ」 0 単位以上

教育学部

教育学科初等教育コース

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 0 単位以上

「英語Ⅱ」 4 単位及び「初修外国語Ⅱ」 0 単位以上

教育学科幼児教育コース

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 0 単位以上

国際学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 4 単位

「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」 4 単位

エ 選択外国語 0 単位以上

文学部 0 単位以上

社会学部 0 単位以上

教育学部 0 単位以上

国際学部 2 又は 8 単位以上

必要単位数に「以上」がついていない科目群・科目区分は、必要単位数以上の単位は卒業単位に含まれませんので注意してください。

(2) 学科専門科目

学科専門科目は、次のとおり履修しなければなりません。

文学部 計 66 単位以上

社会学部 計 80 単位以上

教育学部 計 86 単位以上

国際学部 計 66 単位以上又は 70 単位以上

(3) 現代総合科目

現代総合科目は、次のとおり履修しなければなりません。

聴講登録 関連日程	
I. 履修要領	
教育研究目的	
卒業の要件	
卒業要件及び開講科目	単位制
	単位修得 の認定
	学部・学科別 卒業単位 配当表
	開講科目表
時間割作成	
聴講登録	
共通基礎 科目外国語	
現代総合科目・ 自己選択科目	
スポーツ 科目	
国際交流 科目	
コンソーシアム 単位互換制度	
キャリア教育 プログラム	
数理・ データサイエンス・ AI教育プログラム	
卒業研究	
進級基準	
成績評価	試験
	成績評価
	GPA
規程集	大谷大学 履修規程
	大谷大学 進級規程
II. 資格の取得	
教職課程	
保育士養成課程	
大谷保育協会 保育心理士課程	
学校図書館 司書教諭課程	
博物館学課程	
図書館学課程	
真宗大谷派 教師課程	
社会教育課程 [社会教育主事任用資格]	
社会福祉士 国家試験 受験資格課程	
社会福祉主事 [任用資格]	
開講科目表	
巻末	科目担当者 一覧表

文学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ4単位以上、合計12単位以上
 社会学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ2単位以上、合計6単位以上
 教育学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ2単位以上、合計6単位以上
 国際学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ4単位以上、合計12単位以上

(4) 自己選択科目

自己選択科目は、他学部又は他学科開講科目で履修した単位並びに他の大学等で認定された単位を自己選択科目として認定することができます。

詳細については、第2章「4. 学部・学科別卒業単位配当表」、第5章「1. 大谷大学履修規程」を参照してください。

【卒業単位一覧表】

学部		文学部					社会学部			教育学部		国際学部
科目群	学科	真宗 学科	仏教 学科	哲学科	歴史 学科	文学科	現代社 会学科	地域 政策学 コース・ 情報 メディア コース	社会 福祉学 コース	初等 教育 コース	幼児 教育 コース	国際文 化学科
共通基 礎科目	総合科目	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上
	大学導入	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	必修外国語	12	12	12	12	12	8以上	8以上	8以上	8以上	4以上	12
	選択外国語	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	2又は 8以上
	小計	22以上	22以上	22以上	22以上	22以上	18以上	18以上	18以上	18以上	14以上	24又は 30以上
学科専 門科目	演習	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	概論	4以上	4以上	8以上	10以上	8以上	8	8以上	8以上	4	4	4
	講義	16以上	20以上	22以上	16以上	20以上	28以上	28以上	34以上	36以上	34以上	18又は 26以上
	実践研究	22以上	18以上	12以上	16以上	14以上	20以上	20以上	14以上	22以上	24以上	12又は 24以上
	卒業研究 (卒業論文・ 卒業研究・ 卒業制作)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	小計	66以上	66以上	66以上	66以上	66以上	80以上	80以上	80以上	86以上	86以上	66又は 70以上
現代総 合科目	キャリア 形成系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	2以上	2以上	2以上	2以上	2以上	4以上
	自然生命系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	2以上	2以上	2以上	2以上	2以上	4以上
	歴史文化系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	2以上	2以上	2以上	2以上	2以上	4以上
	小計	12以上	12以上	12以上	12以上	12以上	6以上	6以上	6以上	6以上	6以上	12以上
	自己選択科目	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上
合計		124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上

〔2〕受講科目の選択について

「学部・学科別卒業単位配当表」をもとに実際の受講科目を選ぶためには、今年度開講する科目を記載した第2章「5. 開講科目表」を参照してください。

授業の内容については「授業計画(シラバス)」で確認してください。

A. 共通基礎科目 は…

1. 「開講科目表」の「共通基礎科目」のページから選んでください。
2. 「人間学Ⅱ」と「選択外国語」以外は、クラス指定をしていますので、OTANI UNIPA 等で確認のうえ、指定クラスを履修してください。

B. 学科専門科目 は…

「開講科目表」の「〇〇学科」のページから選んでください。

C. 現代総合科目 は…

「開講科目表」の「現代総合科目」のページから幅広く選んでください。

D. 自己選択科目 は…

1. 「開講科目表」から幅広く選んでください。
2. 他学部・学科の「学科専門科目」から、開講科目表の右側の「他学部」「他学科」の区分欄が○の科目に限り履修できます。

注意！

各科目群に設定されている必要単位数を合計しても、「124 単位」にはなりません。そのため、合計履修単位数を「124 単位以上」にするためには、いずれか、もしくはそれぞれの科目群・科目区分において、必要単位数を上回る単位を修得することが必要です。ただし、必要単位数に「以上」がついていない科目群・科目区分は、必要単位数以上の単位を取得することはできないので注意してください。

〔3〕履修学年配当について

「卒業単位配当表」に記した履修学年配当の中に、「1～4」「2～4」など幅のある科目区分があります。「開講科目表」の学年配当に従って登録・履修してください。

《社会学部 現代社会学科》

区 分			現代社会学コース	必要 単位数	履修学年 配当	摘 要		
共通 基礎 科目	総合科目		人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4			
	大学導入		学びの発見	2	1			
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 0以上	1 1			
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 0以上	2 2			
		選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4			
	小 計			18以上				
	学 科 専 門 科 目	演 習		社会学演習Ⅰ 社会学演習Ⅱ 社会学演習Ⅲ 社会学演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む	
概 論		仏教社会論 社会学概論 現代社会基礎 社会学入門	8	2 2 1 1				
講 義		現代社会論 人間関係論 心理学基礎 現代家族論 ジェンダーと社会 比較心理学 社会心理学 現代社会とコミュニケーション 教育社会学 個人と公共 社会問題論 地域社会論 地域福祉論 環境社会学 グローバリゼーション論 市民活動論 ボランティア論 地方自治論	犯罪と社会 現代文化論 文化社会学 観光社会学 宗教と社会 日本ポップカルチャー論 スポーツと社会 消費社会論 文化人類学 アジア社会論 情報と倫理 情報社会論 情報技術論 社会思想史 社会学史 社会調査論 社会動態論 比較社会論	28以上	※			
実践研究		A	社会統計基礎 フィールドワーク技法基礎	4	1			
		B	フィールドワーク入門 探究フィールドワーク ソーシャル・ドキュメント分析 社会統計演習 メディア・コミュニケーション分析 社会学文献講読（人間関係）	社会学文献講読（公共社会） 社会学文献講読（現代文化） エスノグラフィ講読・作成 文化人類学文献講読 社会情報学文献講読 社会心理学文献講読	16以上	※		
			卒業研究		卒業論文	8	4	卒業年次に提出
			小 計			80以上		
現代 総合 科目		キャリア形成系		※	2以上	※		
		自然生命系		※	2以上	※		
		歴史文化系		※	2以上	※		
		小 計			6以上			
自己選択科目				0以上	※			
合 計				124以上				

[斜体は他学部・他学科と共通]

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

対象学科	真宗	仏教	哲	歴史	文	現代社会	コミュデザ	教育	国際文化
------	----	----	---	----	---	------	-------	----	------

社会学部 現代社会学科

	曜日	時限	授業科目	単位	学年	期別	担当	備考	互換科目等	在学生				その他 科目等 聴講生
										自 学 科	他 学 科	他 学 科	科 目 等	
概 論							一楽 真			○	○	×	×	×
							木越 康			○	○	×	×	×
	木	5	仏教社会論	2	2	前期	M. Ama			○	○	×	×	×
							藤元 雅文			○	○	×	×	×
							酒井 恵光			○	○	×	×	×
	金	3	社会学概論－1	2	2	前期	野村 明宏			○	○	×	×	×
	木	5	社会学概論－2	2	2	後期	阿部 利洋			○	○	×	×	×
	金	1	現代社会基礎	2	1	前期	渡邊 拓也			○	×	×	×	×
							大川 ヘナン			○	×	×	×	×
	金	2	社会学入門	2	1	後期	徳田 剛			○	×	×	×	×
講 義							橋口 昌治			○	×	×	×	×
							永瀬 圭			○	×	×	×	×
	金	2	現代社会論	2	1	前期	田中 正隆			○	×	×	×	×
	水	4	人間関係論	2	1	前期	渡邊 拓也			○	×	×	×	×
	月	3	心理学基礎	2	1～2	後期	粉川 尚枝			○	○	○	○	○
	月	2	現代家族論	2	2	前期	桑原 桃音			○	○	×	○	○
	木	4	ジェンダーと社会	2	2	後期	石田 あゆう			○	○	○	○	○
	水	1	比較心理学	2	2～3	前期	高橋 真			○	○	×	○	○
	火	3	社会心理学	2	3～4	後期	田中 久美子			○	○	×	○	○
	水	2	現代社会とコミュニケーション	2	2	後期	田中 正隆			○	○	×	×	×
	月	3	教育社会学	2	3～4	前期	敷田 佳子			○	○	×	○	○
	木	4	個人と公共	2	1	前期	徳田 剛			○	×	×	×	×
	金	4	社会問題論	2	2	後期	徳田 剛			○	○	×	×	×
	木	4	地域社会論	2	1	後期	徳田 剛			○	○	×	×	×
	火	2	地域福祉論1	2	2	前期	平尾 良治			○	○	○	×	○
	火	2	地域福祉論2	2	2	後期	平尾 良治			○	○	○	×	○
	火	1	環境社会学	2	2～3	前期	土屋 雄一郎			○	×	×	○	○
	金	4	グローバリゼーション論	2	3	前期	阿部 利洋			○	○	×	○	○
	月	5	市民活動論	2	1	後期	大原 ゆい			○	○	×	×	×
	月	5	ボランティア論	2	1	前期	大原 ゆい			○	○	×	×	×
	金	2	地方自治論	2	3	前期	白取 耕一郎			○	○	×	×	×
	木	2	犯罪と社会	2	2	前期	脇中 洋			○	○	○	○	○
	木	2	現代文化論	2	1	後期	野村 明宏			○	×	×	×	×
	金	3	文化社会学	2	2～3	後期	川田 耕			○	×	×	○	○
	月	1	観光社会学	2	2～3	前期	吉田 全宏			○	×	×	○	○
	水	5	宗教と社会	2	2	後期	本林 靖久			○	○	×	○	○
	木	5	日本ポップカルチャー論	2	2～4	後期	柴田 みゆき			○	○	○	○	○
	火	1	スポーツと社会	2	1～2	後期	大野 哲也			○	○	×	○	○
	木	3	消費社会論	2	3～4	前期	石田 あゆう			○	○	×	○	○
	水	5	文化人類学	2	2～3	前期	本林 靖久			○	○	×	○	○
	火	3	アジア社会論	2	2～3	後期	工藤 さくら			○	○	×	○	○
	水	3	情報と倫理	2	1	後期	渡邊 啓真			○	○	○	○	○
	火	5	情報社会論	2	1	後期	永瀬 圭			○	○	○	○	○
	金	4	情報技術論	2	2	後期	酒井 恵光			○	○	×	×	×
			社会思想史	2	3～4			本年度休講						
	水	2	社会学史	2	3～4	前期	川田 耕			○	○	○	○	○
	月	2	社会調査論	2	2～3	前期	古屋 哲			○	○	×	○	○
	火	5	社会動態論	2	2～3	後期	橋口 昌治			○	×	×	×	×
	金	2	比較社会論	2	2～3	前期	高井 康弘			○	×	×	×	×
実践研究	木	2	社会統計基礎－1	2	1	前期	高橋 真			○	×	×	×	×
							永瀬 圭			○	×	×	×	×
	木	1	社会統計基礎－2	2	1	前期	高橋 真			○	×	×	×	×
							山城 稔暢			○	×	×	×	×
	月	3	社会統計基礎－3	2	1～4	後期	永瀬 圭	再履修		○	×	×	×	×
							後藤 晴子			○	×	×	×	×
	金	1	フィールドワーク技法基礎	2	1	後期	古谷 伸子			○	×	×	×	×
							大川 ヘナン			○	×	×	×	×
							田中 正隆			○	×	×	×	×
	金	5	フィールドワーク入門1	2	2	前期	橋口 昌治			○	×	×	×	×
							後藤 晴子			○	×	×	×	×
							大川 ヘナン			○	×	×	×	×
							古谷 伸子			○	×	×	×	×
	金	5	フィールドワーク入門2	2	2	後期	橋口 昌治			○	×	×	×	×
							後藤 晴子			○	×	×	×	×
							古谷 伸子			○	×	×	×	×
							大川 ヘナン			○	×	×	×	×
	木	2	探究フィールドワーク1	2	3	前期	徳田 剛			○	×	×	×	×
							大川 ヘナン			○	×	×	×	×

現代総合科目 キャリア形成系

分野	曜日	時限	授 業 科 目	単 位	学年	期別	担 当	備 考	互換科目等	在 学 生	その他聴講生
キャリアデザイン	火	3	キャリアデザイン概論1	2	1～4	前期	柳生 利恵			○	×
	火	3	キャリアデザイン概論2	2	1～4	後期	柳生 利恵			○	×
	木	2	キャリアデザイン実践1	2	2～4	後期	柳生 利恵			○	×
	火	2	キャリアデザイン実践2	2	3～4	前期	柳生 利恵			○	×
	*		産学連携教育プログラム特殊演習1大学コンソ京都	2	2～3	集中後期	古谷 伸子	キャンパスプラザ京都		○	×
	*		産学連携教育プログラム特殊演習2大谷大学	2	1～4	集中後期	安田 誠人			○	×
			インターンシップ3学校(教職)	2				本年度休講			
			探究基礎演習	2				本年度休講			
			フィールドワーク特殊演習(PBL)	2				本年度休講			
	金	2	思考法入門	2	1～4	後期	狭間 芳樹			○	×
	木	4	大学での学びを知る	2	1～4	後期	筒井 洋一	文学部のみ履修可		○	×
	火	5	日本国憲法1	2	1～4	前期	寺川 史朗			○	△
	火	5	日本国憲法2	2	1～4	後期	寺川 史朗			○	△
	火	6	日本国憲法3	2	1～4	前期	寺川 史朗			○	△
	金	4	青年と社会教育	2	2～4	前期	高道 由子			○	○
情報リテラシー	月	1	社会福祉と社会教育	2	2～4	後期	山崎 弥生			○	○
	木	2	ポルトガル語圏のくらしと言葉1	2	1～4	前期	狭間 芳樹			○	○
	火	3	ポルトガル語圏のくらしと言葉2	2	1～4	後期	狭間 芳樹			○	○
	金	3	デジタル人文学概論	2	1～4	後期	武田 和哉	文学部のみ履修可		○	×
	金	1	情報メディアと社会	2	1～4	前期	松原 伸一	文学部・国際学部のみ履修可		○	○
			人文学とコンピュータ	2				本年度休講			
	月	2	デジタル時代の知的財産権	2	1～4	前期	柴田 みゆき	文学部のみ履修可		○	○
	木	5	ワード・プロセッシング入門	2	1～4	前期	横澤 大典			○	×
	木	5	ワード・プロセッシング応用	2	1～4	後期	横澤 大典			○	×
	月	4	PC利用による表計算入門	2	1～4	前期	高橋 真			○	×
	水	5	PC利用による表計算応用	2	1～4	後期	高橋 真			○	×
	水	5	PC利用によるプレゼンテーション	2	1～4	後期	杉山 正治			○	×
	水	2	PC利用によるレポート・論文技法	2	1～4	前期	生田 敦司			○	×
	*		ICT入門	2	1～4	集中前期	大秦 一浩			○	×
	月	5	データサイエンス入門	2	2～4	前期	大秦 一浩			○	×
文章表現	水	4	データサイエンス基礎	2	2～4	後期	大秦 一浩			○	×
	火	2	画像処理入門	2	1～4	前期	山城 稔暢			○	×
	火	2	画像処理応用	2	1～4	後期	山城 稔暢			○	×
	水	3	PCミュージック入門	2	1～4	前期	生田 敦司			○	×
	水	3	PCミュージック応用	2	1～4	後期	生田 敦司			○	×
	木	5	Webサイト構築入門	2	1～4	前期	杉山 正治			○	×
	木	5	Webサイト構築応用	2	1～4	後期	杉山 正治			○	×
	金	3	人文学データベース入門	2	1～4	前期	平澤 泰文	文学部のみ履修可		○	×
	月	3					藤貫 裕			○	×
							味村 考祐			○	×
							松下 俊英			○	×
			日本語表現(入門)1	2	1～2	前期	鳥越 覚生			○	×
							村上 昌孝			○	×
	木	4					深町 博史			○	×
							佐藤 夏樹			○	×
文章表現	月	3					藤貫 裕			○	×
							味村 考祐			○	×
							松下 俊英			○	×
			日本語表現(入門)2	2	1～2	後期	鳥越 覚生			○	×
							村上 昌孝			○	×
	木	4					深町 博史			○	×
							佐藤 夏樹			○	×
	木	2	日本語表現(実践)	2	2～4	前期	三浦 啓史加			○	×
	木	2	発想から表現へ	2	1～4	後期	清水 利明			○	×

(設置)

第1条 大谷大学(以下「本学」という。)に、教育推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(目的)

第2条 推進室は、本学の教育活動について継続的に検証及び提言を行い、学生の学びの質保証及び教育の推進に資することを目的とする。

(業務)

第3条 推進室は、前条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の検証及び改善案の策定
- (2) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)の検証及び改善案の策定
- (3) 第1号及び第2号の方針に基づく教育課程の検証及び改善に向けての提案
- (4) 第1号及び第2号の方針に基づく教育方法の検証及び改善に向けての提案
- (5) 教育目標に沿った成果を測定するための評価指標の策定
- (6) 前各号の業務遂行に必要な情報の収集
- (7) その他必要な事項

(構成)

第4条 推進室は、次の者をもって構成する。

- (1) 推進室長 1名
 - (2) 副推進室長 1名
 - (3) 文学部長
 - (4) 社会学部長
 - (5) 教育学部長
 - (6) 国際学部長
 - (7) 大学院人文学研究科長
 - (8) 学生支援部事務部長
 - (9) 学生支援部教務課長
 - (10) 推進室員 若干名
- 2 推進室長は、教育・学生支援担当副学長がこれに当たり、推進室の管理運営に関する諸般の業務を統括する。
- 3 副推進室長は、推進室長を補佐し、推進室長に事故あるときはその職務を代行する。
- 4 推進室員は、推進室長の指示を受け、推進室業務に従事する。
- 5 副推進室長は、本学の教育職員のうちから教育・学生支援担当副学長が推薦し、学長が委嘱する。
- 6 推進室員は、本学の教育職員又は事務職員のうちから教育・学生支援担当副学長が推薦し、学長が委嘱する。
ただし、教育職員については、文学部、社会学部、教育学部及び国際学部 to 所属する者からそれぞれ委嘱するものとする。
- 7 副推進室長及び推進室員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(部会)

第5条 推進室長は、推進室の業務を遂行するために必要と認めた場合、作業部会において検討させることができる。

(所管)

第6条 推進室に関する事務の所管は、学生支援部教務課とする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2014年2月13日に一部改正し、同日から施行する。

付 則

この規程は、2018年1月31日に一部改正し、2018年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2021年3月4日に一部改正し、2021年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2021年7月21日に一部改正し、文部科学大臣の認可の日(2021年8月27日)から施行する。

付 則

この規程は、2023年2月22日に一部改正し、2023年4月1日から施行する。

(設置)

第1条 大谷大学(以下「本学」という。)に、教育推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(目的)

第2条 推進室は、本学の教育活動について継続的に検証及び提言を行い、学生の学びの質保証及び教育の推進に資することを目的とする。

(業務)

第3条 推進室は、前条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の検証及び改善案の策定
- (2) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)の検証及び改善案の策定
- (3) 第1号及び第2号の方針に基づく教育課程の検証及び改善に向けての提案
- (4) 第1号及び第2号の方針に基づく教育方法の検証及び改善に向けての提案
- (5) 教育目標に沿った成果を測定するための評価指標の策定
- (6) 前各号の業務遂行に必要な情報の収集
- (7) その他必要な事項

(構成)

第4条 推進室は、次の者をもって構成する。

- (1) 推進室長 1名
 - (2) 副推進室長 1名
 - (3) 文学部長
 - (4) 社会学部長
 - (5) 教育学部長
 - (6) 国際学部長
 - (7) 大学院人文学研究科長
 - (8) 学生支援部事務部長
 - (9) 学生支援部教務課長
 - (10) 推進室員 若干名
- 2 推進室長は、教育・学生支援担当副学長がこれに当たり、推進室の管理運営に関する諸般の業務を統括する。
- 3 副推進室長は、推進室長を補佐し、推進室長に事故あるときはその職務を代行する。
- 4 推進室員は、推進室長の指示を受け、推進室業務に従事する。
- 5 副推進室長は、本学の教育職員のうちから教育・学生支援担当副学長が推薦し、学長が委嘱する。
- 6 推進室員は、本学の教育職員又は事務職員のうちから教育・学生支援担当副学長が推薦し、学長が委嘱する。
ただし、教育職員については、文学部、社会学部、教育学部及び国際学部 to 所属する者からそれぞれ委嘱するものとする。
- 7 副推進室長及び推進室員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(部会)

第5条 推進室長は、推進室の業務を遂行するために必要と認めた場合、作業部会において検討させることができる。

(所管)

第6条 推進室に関する事務の所管は、学生支援部教務課とする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2014年2月13日に一部改正し、同日から施行する。

付 則

この規程は、2018年1月31日に一部改正し、2018年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2021年3月4日に一部改正し、2021年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2021年7月21日に一部改正し、文部科学大臣の認可の日(2021年8月27日)から施行する。

付 則

この規程は、2023年2月22日に一部改正し、2023年4月1日から施行する。

大学等名	大谷大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

【目的】
 本学学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成すること

【修了要件・科目構成】
 以下の必修科目からすべて、選択必修科目からいずれを履修

【身に付けられる能力】
 ①AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解できるようになる
 ②情報社会で注意すべき情報倫理・モラルについて学び、AI・データを活用する際に注意を払い、活用できるようになる

【実施体制】

▼運営責任者

教育・学生支援担当副学長
(教育推進室長)

▼改善・進化させるための体制

自己点検・評価を行う体制
教育推進室

